

継続的なコスト削減を実現する環境を
最短・最速で構築する

mcframe 原価管理 短期導入ソリューション



実績を正確に捉え 利益率や製品改善のPDCAの実践へ

「mcframe原価管理 短期導入ソリューション」は、製品別や工程別など、実際原価や利益をより精緻に把握できる仕組みを短期間で構築するソリューションです。原価差異分析によるコスト低減やタイムリーな原価企画を実現し、お客様の原価改善活動を支援します。



原価管理における企業の課題とは

体系だった原価管理の取り組みに苦慮されている企業様は多いと考えています。原価管理の取り組みをしているものの、専用のツールがないために基幹システムから抽出したデータをExcelなどで加工して膨大な作業工数がかかっているケースや、必要なデータをタイムリーに提供することができず、結果として改善につなげることができていないケースも見られます。

「原価計算結果を見ても現場ではどのように改善したらよいかわからない」「次の経営アクションにどうつなげればよいかわからない」というケースも珍しくありません。この要因の1つは、そもそも原価情報が改善に活用できる状態で捉えることができていないことです。目的意識を明確にした上での原価管理の仕組みが必要とされます。

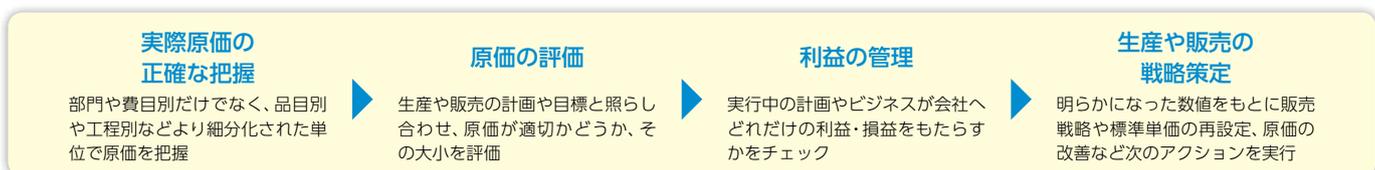
企業が目指すべき原価管理の姿

企業が目指すべき姿は、「目標利益を実現するために、現在までの活動結果を財務面で正確に把握し、その結果から予想できる未来の状況を把握した上で、適切な対処につなげること」ではないでしょうか。市場の変化が加速し、これまでのノウハウや経験が活かしづらくなる現在、正しい経営判断を下していくにはデータに基づくPDCAサイクルの構築が不可欠です。そのために策定した予算原価に対して差異を分析するための実績データが求められます。

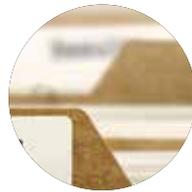
これらを財務面から正確かつタイムリーに捉えることができれば、実績から予想される未来の状況を把握することができ、対策すべきポイントの特定が可能となります。



製品（費目）別の正確な「実際原価」を取得することで 企業の継続的な改善サイクルの土台を構築



実際原価は改善活動の根幹に位置する



mcframe 原価管理 短期導入ソリューションとは

素早く効果を出せる「原価管理導入」

mcframe原価管理では、生産実績と経費をインプット情報とし、あらかじめ設定した原価計算を実行することで月単位での原価や利益情報を見える化できます。これまでExcelなどを使って手作業で集計していたことによる業務負荷や業務の属人化を解消するとともに、タイムリーな数値の把握を可能にします。

キヤノンITソリューションズでは、お客様の課題と現状に合わせて、mcframe原価管理の最適な機能の導入を行い、素早く効果を得られる「短期導入ソリューション」を提供しています。適切な原価企画やコスト低減活動を見える化する上で欠かせない実際原価を正確かつ細かい粒度で把握できる体制を構築します。

標準機能をフル活用して短期導入を実現

実際の導入にあたっては、お客様の「あるべき姿 (To-Be)」をヒアリング後、お客様の実際のデータを用いながらいち早く原価計算のモデルを作成。プロトタイプを提示しながら進めることで認識の違いを防ぎ、運用イメージを確認しながらプロジェクトを進めていきます。

さまざまな業種のノウハウが集約されたmcframe原価管理システムの標準機能に業務を合わせていく手法により、最短最速で「今」を捉えることを可能とします。経験豊富な当社コンサルタントとSEがあるべき姿に向けた最適なシステム活用方法をご提案します。

短期導入ソリューションの特長

1. パッケージのフル活用

mcframeが標準で提供する優れた機能を最大限に活用することで、コストや納期を最小限に抑えた原価管理の仕組みを構築します。豊富な配賦方法を活用し、より実態に沿った原価の算出が可能です。

2. 豊富な実績とノウハウ

キヤノンITソリューションズではこれまでさまざまな顧客の原価管理を支援してきた実績があります。そこで培ったノウハウや成功事例をもとに、お客様のあるべき姿を実現する提案が可能です。

3. 改善の文化の定着

ただシステムを導入するだけでは継続的な改善はできません。本ソリューションでは、導入後にお客様自身で運用できるようにサポートを行い、自社でPDCAを回せる体制構築を支援します。

企業の業務課題に応じた原価管理の改善ユースケース



step up

CASE 1

製品別の原価を把握する

まずは実際原価計算のレベルアップを始める支援をします。データモデルの策定を行い、お客様自身でプロトタイプを作成、システム運用までできるようにサポートします。

製品ごとの原価と利益を把握することにより、製造原価の低減活動、利益向上のための販売戦略立案への定量的動機付けを行い、改善活動の第一歩となる土台を築きます。

CASE 2

工程別の原価を把握する

すでに製品ごとの実際原価を把握しているお客様に対しては、より細かい製造工程やグループで原価計算を実施し、実際原価を把握できるよう支援します。

製造現場で財務影響が多い改善ポイントはどこであるかを明らかにし、改善活動がもたらす財務評価をより明確化します。

CASE 3

原価差異分析を行う

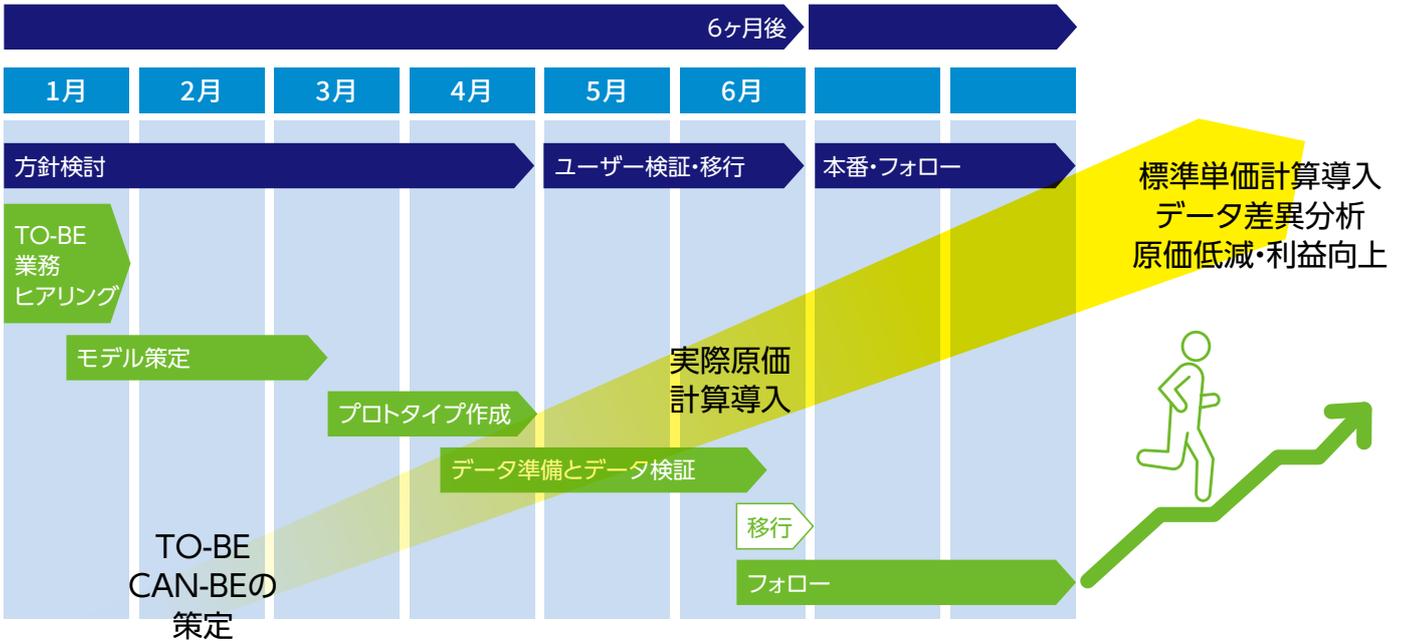
実際原価を把握済みのお客様に対しては、標準単価を設定する支援から始めます。そこから実際原価との差異を分析し、利益向上や原価低減のポイントを明らかにするための仕組みづくりを構築します。

ダッシュボードを利用した経営判断のための迅速な数値開示、また見える化による経営と現場の意識統一を実現します。

導入のイメージと目指す姿

実際原価を算出するための「モデル」を策定し、その後プロトタイプで効果を確認いただいたあと、そのモデルを元にお客様自身で他の品目へと横展開していただけるよう支援します。お客様自らマスタ設定をしてシステムに触れていただくことで、「自身で扱い運用できる」システムを獲得することができます。

お客様のゴールを明確にし「ここまでできるようになる」という目標を定め、できることから始めて徐々に実績メッシュを上げ原価分析精度をあげていくための形作り、仕組みづくりを目指します。



標準単価用データを準備できるお客様は、本番・フォローの時点からデータ差異分析が可能です。

当ソリューションは以下の課題をお持ちの企業に最適です

- 原価データを蓄積しているがどう活用してよいかわからない
- 粗い粒度で行っている原価計算を短期間で正確に行えるようにしたい
- すでに原価計算は確立しているが、より詳細な原価差異分析まで行いたい
- 営業利益分析、損益予実分析を高度化して販売戦略策定につなげたい
- マネジメント層が利用できる原価情報の正確な見える化の仕組みを構築したい



上記のうち1つでも当てはまるお客様はぜひご連絡ください

https://www.canon-its.co.jp/products/mcframe_cost/purchase/

※参考価格は担当営業へご確認ください。

Canon キヤノン IT ソリューションズ株式会社

〒108-0075 東京都港区港南2-16-6 CANON STOWER TEL (03) 5730-7929 <https://www.canon-its.co.jp>

キヤノンITソリューションズ株式会社は、ビジネスエンジニアリング株式会社が提供する「mcframe」のライセンス販売およびインテグレーションを行う「ビジネスパートナー」です。